

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス大網白里教室		
○保護者評価実施期間	2025年2月5日		～ 2025年3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年2月5日		～ 2025年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動プログラムに沿って活動ができ、室内でたくさん体を動かせる。	始まりのあいさつでは、日付や曜日の感覚がわからない児童と一緒に確認している。運動した後は、読み聞かせや、フラッシュカードで静かな活動で落ち着けるようにしている。運動遊びを通してルールや約束事を決めて行っている。	子ども達のやりたい気持ちを尊重しながら、運動のプログラムを考え自発的に参加できるようにしていく。
2	視覚支援が行えるように、玩具など教室にある備品の写真ファイルを作成し意思伝達ツールとして活用している。	指差しと同時に「貸して」など言語を合わせて一緒に確認し発語を促している。マカトンサインを使用し「待つ」「座る」「一緒に」など言語だけではなく視覚から理解できるように意識している。	遊びの中に、形や絵を通して日常生活で使われる行動や名前を覚えられるように取り入れていく。
3	活動プログラム以外の自由活動で、本人のやりたいことを行い楽しめるように工夫している。	工作やねんどで集中する子には、折り紙や箱を用意し、友達同士で鬼ごっこをする子には危なくない環境で行えるように、学習室を設け環境を整えている。外出や調理などのイベントをおこない楽しみながら経験できるように工夫している。	本人の好きな遊びを見つけ、「楽しい」「嬉しい」など明るい空間を作れるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	高学年、中高生のプログラム	低学年の利用者が多く、同年代で遊べる環境が少ない。運動プログラムも児童や低学年向けの内容になっている。	就労の準備も意識しながら活動プログラムを考える必要がある。
2			
3			